

令和7年度第4回富谷市介護保険運営委員会 会議録

～ 委員会概要 ～

| | |
|------------|--|
| 日 時 | 令和8年3月16日(月) 午後2時00分～午後3時25分 |
| 場 所 | 富谷市役所3階 305会議室 |
| 出席委員(14名) | 那須 正行、笠原 純子、志水 田鶴子、中谷 良子、吉村 恵理、 田中 しの、斎藤 翔、門間 とも子、鈴木 郁子、永野 憲子、 佐藤 恵子、相澤 富子、増田 恵美子、菅原 義則 |
| 欠席委員(3名) | 江角 伸吾、渡邊 裕志、土井 孝博 |
| 会議に参加したる者 | 市長 若生 裕俊 |
| 事務局出席者(8名) | ○保健福祉部 部長 高橋 加代、長寿福祉課長 横田 善和、 同課長補佐 亀 莊一郎、同主幹 岡 宣之、同主事 早坂 友花、 保健福祉総合支援センター所長 大谷 江里子、同副所長 伊東 大助、 同技術主幹 高橋 侑美 |

江角委員、渡邊委員、土井委員3名の欠席となっているが、過半数の出席により、委員会規則第4条の規定により委員会開催を確認。

午後2時00分

- < 開 会 > 司会進行 長寿福祉課長補佐
< あいさつ > 富谷市介護保険運営委員会 委員長 那須 正行
< あいさつ > 富谷市 市長 若生 裕俊(市長あいさつ後、公務により退席)

(亀補佐) なお、今後の議事進行につきましては、委員会規則第4条の規定に基づき、委員長が議長となり進行することとなっておりますので、よろしくお願い致します。

(那須委員長) 議事を進行するにあたり、委員の皆様の活発なご意見を期待いたしますとともに、議事進行につきましてご協力をお願いいたします。

それでは早速ですが、議事にはいります。

4点の報告・協議事項となっております。

それでは、報告(1)富谷市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画実態把握調査概要について、説明を事務局からお願いします。

(岡主幹) < 資料1 富谷市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画実態把握調査概要について >

(那須委員長) ありがとうございます。

ただいま、事務局から説明ございました、ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。

(特になし)

続きまして、協議(1)令和7年度介護保険給付状況等について、事務局からお願いします。

(岡主幹) < 資料2 第9期介護保険事業計画・令和7年度介護給付状況等について >

(那須委員長) ご説明ありがとうございます。

ただいま、事務局から説明ありましたが、はい、お願いします。

(菅原委員) 12ページですね、市内入所系施設一覧、有料老人ホームというのが、スプリングフォレスト明石台とか、オアシスとか、これを有料老人ホームなんですよね、富ヶ丘、富谷西沢、一覧に載ってるんですが、入所原因とか分かるんですか？

(岡主幹) この市内入所系施設のお示しですが、委員さんおっしゃるように有料老人ホームということで、オアシスさんとか、スプリングフォレストさんがございます。

この一覧については、特定入所というところで、その事業所さんで、介護保険としてサービスを運営してるというところになっておりまして、有料老人ホームの先ほどおっしゃっていただいたところになると、そこに住みながら、ご自身で訪問サービスとかそういったものを選択するものっていうところになるので、施設としてその介護の特定っていうことで受けてないので外れてるというところになっております。

なお、去年とかであればそういう入所施設系の入所者については、都度、確認しているという状況でございます。

(那須委員長) はいどうぞ。

(斎藤委員) 11ページの看護小規模多機能型居宅介護の部分だったんですけども、先ほど説明していただきましたが、新規事業所の開設は見込まれたが、現時点で開設されず執行率が低いとご報告いただいたんですけども、建物自体が無いからというところで、需要だったり人数というのは、大きくて、一個になってるから執行できていないのか、そもそも需要自体が低くて、執行率が高くなっていないのかというところお伺いできればと思います。

(岡主幹) 実情申し上げますと、令和5年度に計画立てる時点で、地域密着型施設ということであおいさんがあるんですけど、別の事業所さんからご相談いただいて見込んでいたんですけども、その分が今開設未定というところで、執行率がこのような状況になっていると先ほどお示したところになります。

あおいさんの、現時点の状況なんですけれども、当然、地域密着型の事業所さんということで、運営推進会議というものを2か月に1回を目途に開いておりまして、うちの方でも参加させていただいて、若干ですが一応まだ定員に空きがあるというところで、利用希望とかがあれば伝えて欲しいというところで、お話としてはやりとりさせていただいておりますので、そんなにニーズが低いということではないんですけど、まだ、若干余裕があるというところがございますというのが現状でございます。

今お話しあった通り、今後ですね、8年度において、第10期のサービスの供給量とか推計していきますので、他のサービスも含めてですね、どれぐらい事業所が必要かどうかというのは推計、検討して参りますのでよろしくお願いたします。

(斎藤委員) ありがとうございます。

(那須委員長) それではですね、続きまして、(2) 令和7年度高齢者保健事業実績及び令和8年度事業計画(案)についての説明を事務局からお願いいたします。

(伊東副所長) < 資料3 高齢保健福祉事業令和7年度事業評価及び令和8年度方針(案)について >

(那須委員長) ただいまの説明について質問等ありますか。

(菅原委員) 8ページになるんですが、地域リハビリテーション活動支援事業について、昨年6月から実施されて、個別2人、団体3か所にPT、これ理学療法士のこと言ってるんですよね？実際に活動されてるんですが、申請から実施までの過程というのは地域包括で申請からやっていくやり方なんですか？

(大谷所長) こちら利用に関しましては、個別については包括だったり、ケアマネさんの方からご相談を受けて、おうちの方に行かせていただいております。

団体に関しましては、例えばゆとりすととか、そういったところ、老人クラブもあったかと思えます、そちらの方の団体申請というところで受けて、そちらの方に、すいませんPTと書いてしまったのですが、おっしゃったとおり理学療法士でございまして、仙台リハビリテーション病院の方にご協力をいただきまして、出向かせていただいた事業でございまして。

(菅原委員) 9ページのチームオレンジ、実際チームとしては、何チームを組織されているか、活動の内容を教えてください。

(大谷所長) こちらは事業計画上、第9期で目標値としているのが1チームの制定としておりまして、そちらの方ですね、市の方で、今年度、何とかチームオレンジを立ち上げていくために、各包括支援センターの方でそれぞれの地区課題に応じて立ち上げの方にご尽力いただいたところでございます。

今年度活動というところは具体的には今年度立ち上げのための準備期というところになりますので、その中で、包括さくらさんの方で、いち早く立ち上げの方がなされたというところでございます。

来年度は引き続き、他の2圏域でも立ち上げていただくように市の方でもバックアップをして行くところでございます。

(菅原委員) それでは7ページの言葉の意味がちょっと難しくて分からないんですが、第一層協議体、それから第二層とありますね、一層は市で、二層は地域包括だと思んですけど、ちょっと少し具体的にお話を伺いたいんですが。

(大谷所長) 委員おっしゃる通り、それぞれ単位毎に、第一層、第二層、あと第三層も

ございますが、本市では第二層を各地域包括支援センターの単位として、第一層を市全体の単位として定義づけているところがございます。

まず、第二層の方で、それぞれの地域に応じた地区課題であったり、互助・共助の視点からの対応っていうのをご協議いただいて、そこで提言を受けた内容について第一層協議体でお諮りするという流れになっております。

(鈴木委員) PTっていう活動についてご質問なされたので、多分利用者二名というところの一名がうちだったのかなと思ったので、感想をお話しさせていただきたいと思います。

主人がちょうど一年前に心臓の手術をしまして、そのあとやっぱり体調がなかなか戻らない中で、若干フレイルと思われる時期に突入しまして、包括支援センターさくらさんに伺って、こういう状況でここからどのように暮らしていくべきだろうとか、介護保険の対象にはなるだろうとか、そういうご相談させていただきましたら、リハビリテーション病院の方から派遣していただけるということで、さくらさんの担当の方と一緒に来ていただいて、一時間ほどお話しをしていただきました。

体の状況と理学療法士としての立場から体の使い方とか、いろいろ教えていただいて本当に助かりました。

手術すると外科の治療はそこで終わりなんですね、投薬は続くんですけど、そのあと帰ってきてから何をすべきなのかっていうところが分からない、体調がなかなか去年夏の厳しい暑さの中で、外に出るのもなかなかままならない状況でだんだんこう落ちていく感じがあったんですけども、きちんとした知識を持った方が、体の使い方を分かりやすく説明していただいたことで、すごくありがたかったです。

大変いい事業だと思いましたので、ぜひ、多分、ケアマネージャーの方とかがお薦めくださるのか、うちの場合は包括支援に伺えばいいんだなと私は分かってたので行きましたけれども、例えば、ケアマネージャーのお世話になってる方は、包括の方には伺わないのかなと思うので、その点を、情報伝達を密にさせていただいたらいいかなと思いました。

ありがとうございます。

(那須委員長) はい、大変感謝していますね。

(佐藤委員) 7ページの高齢者のごみ出し支援について着目しましたという内容について教えていただければ幸いです。

シルバー人材センターにはワンコインサービスというサービスがありますが、今年は地域包括支援センターの方々からの声掛けをいただきまして、ワンコインサービス事業の中で、半分の割合の方がごみ出しのお仕事をいただくということで、お仕事させていただいております。

この計画の中では、こういった形でこのごみ出し支援に取り組むということでお進めいただいたのかを教えていただければ、なおシルバーとしても参考になるかなというふうに思いましてご質問させていただきます。

(大谷所長) 第二層でお話しをいただく内容に関しましては、市の方からこういう内容をしてくださいっていうものではなく、地域包括支援センターの方で、各地域で課題だと思われるようなことを各地域の皆さんで話し合いを進めていくってことの立て付けになっております。

ただ、やはり近年ごみの出し方とかやはり認知症を抱えた方が、ゴミを正しく出すというのが難しいという、地域からの声なども受けまして、今年度については、3包括中、2包括がごみ出しの支援に関して、第二層協議体でお話し合いを進めたところでございます。

市の方にでもですね、そういったご相談っていうのが入っておりますので、第二層からの提言を受けまして、第一層協議体の方で、第二層で話し合われた内容なども含めて、本市の第一層協議体の方で話し合いを深めたところでございます。

そういったものを踏まえて、次年度以降ですねその共助・互助、また、公助のあり方について少し具体的にこう踏み込んだ形で、今後、協議を進めていく予定としております。

その中で本市でもシルバーさんの取り組みというのを分析させていただいて、かなり多いんだなと。ワンコインの中でも、ごみ出しは本当に多くを占めているんだなっていうのがわかったところでございますので、その課題感をですねともに対策として進めていけたらなと考えておりました。

(佐藤委員) 持ち帰りましてお話しをさせていただきます。

(斎藤委員) すいませんがちょっと3点お伺いさせていただきたいと思います。

2ページの(4)の介護予防・日常生活支援総合事業の推進の部分だったんですけれども、課題の部分に、受け皿のところですね、要支援2の受け皿となる週2回の運用が困難なため、介護予防相当は通所相当サービスの利用増に繋がっているというところけれども、本来で、こちらの通所Aで受け入れるべき人数的にいくと、どのぐらいの需要があつて、今受けれずに相当サービスに移行されてあるのかつていうところを一つお伺いできればと思っておりました。

もう一つがですね、4ページになります、基本方針3の(1)高齢者世帯等への支援の部分の①の給食サービス事業の令和8年度の方針の部分で、土日のサービス提供拡大を予定しているというところなんですけれども、どのような形でサービス提供と、あと、もし開始時期等がある程度決まっているのであれば、ちょっと教えていただきたいところのご相談でした。

もう1点が、5ページの(2)介護する家族への支援の部分で、主要な取り組みの①の高齢者施設見学ツアーと福祉用具の展示体験が2回実施し、参加者の満足度は高かった、という所なんですけれども、課題の方に参加人数が伸び悩んだというところで、こちら両方のツアーの方は参加人数どのぐらいの方々がご参加されていたか教えていただければと思います。

この3点よろしく申し上げます。

(大谷所長)

2ページ目の(4)の通所型サービスAだったんですが、昨年度からサテライト会場をちょっと変更しましてやってはいるんですけれども、要支援の方が通常週2回通えるんですが、サテライト会場の借用の都合上、どうしても週1回しかお借りすることができないつていうところで、週1回の開催になっているところですね。

今、利用者のところは7名になっておりますが、ちょっと、ここの受け皿が満たない中で、こちらの指定事業所、給付の方の最後の介護予防通所相当サービスの方の利用に、何名繋がっているかつていうところまでの分析はしておりませんで、相当サービスの承認願つていうものが上がってくるんですが、その中で本来であれば、通所型サービスAでも十分じゃないかな、と思われる方々が承認願で上がってきているのかな、という現状でございます。

ですので、仙台リハビリテーション病院さんとケアオフィス(佐々木接骨院)さんに、この事業はお願いしているところでございますが、それぞれ、

もう結構定員がパンパンな状態で、会場をさらに増加して何とか実証しているところではございますが、今後はですね、もしかして、その指定事業所の方を、市内でどこか受けてくれる所を探して、そちらの方でさらに受け皿を確保していくというところが必要か、もしくは個々の通所Aの方が通所Aに通い続けて、すごくお元気になったときの受け皿を探していくか、中の循環図るか、ちょっといずれかの方でしっかりと手を打っていく必要があるかなと考えておりました。

4 ページ目の給食サービスの土日のご質問であったのですが、こちらは、今、4月開始に向けて準備を鋭意進めているところでございます、これから、いろいろ様々事務を整えている所でございますので、ケアマネさんや、包括を中心に、準備ができしだい、こちらでもアナウンスを図って、っていうふうに見込んでおります。

内容としては、今、社会福祉協議会さんの方に委託してる内容とほぼ同内容で実施予定としておりまして、手渡しでのお弁当の引き渡しによる安否確認のほうを予定しております。

なお、通常食と療法食のいずれも実施予定としておりますが、自己負担を平日は300円ですが、土日は400円いただく予定としておりました。

あと5ページの人数ですね、介護者教室交流事業、それぞれ①の見学ツアーは5名、展示会は4名プラス事業所の関係者ということで、市民の方は4名になっていたかと思えます。

以上でございます。

(斎藤委員) ありがとうございます。

(那須委員長) 続きまして、(3)第10期介護保険事業計画策定スケジュール(案)についての説明を事務局からお願いいたします。

(岡主幹) < 資料4 令和8年度第10期介護保険事業計画策定スケジュール(案)について >

(那須委員長) スケジュール案につきまして説明いただきました。

ご意見・ご質問等ありますか。

(特になし)

(那須委員長) 全体を通して、ご意見等、ご質問等ありましたらお願いします。

(鈴木委員) 今日参加させていただいて、全体を通して感じたことをちょっとお話しさせていたただきたいと思います。

母が介護の方、お世話になってたのが7、8年前なんですけれども、その頃と比べるとまだ大分変わったところもありまして、工夫を重ねて、細かく配慮していただいているんだなあと思って、ありがたく思っております。

ただ、そこにアンケート調査からも見えてくるように、何かやっぱりその情報にたどり着くところが、いろいろ勉強会などを催していただいても、どうしても、認知症の勉強会とかっていうと、なかなか身に降りかからないところではなかなか行かないものですよ。

そういう時に、そこへどう繋ぐかっていうことが、やっぱり大きな課題なのかなって思うんですけれども、例えば、生涯学習課で行っているような楽しい授業があると思うんですけれども、そこに来た方々がその情報にたどり着けるような案内っていうのは、ちょっとされてるのかどうかわかんないんですけれども、もし可能であれば、一緒に参加したメンバーが、これ面白そうね、だったり、これ勉強になるかもね、とか、認知症講座なんて一緒に行ってみるみたいな、そういう仲間同士で一緒にとかなら行くようなこともあるのかなと思ったので。

例えば、各課で催されるような、楽しい子供の行事でもいいし、そういう時に、そういう勉強会に繋がるような情報も、こういうところあるよっていうふうにお示しいただくと、ひょっとしたら何十分の一かもしれませんけれども、そういうこと、と思いましたので、ご検討いただければなと思いました。

(大谷所長) 大変貴重なご意見ありがとうございます。

我々も、つい広報とか、個別に働きかけてたところにばかり頭が行っていたので、今の委員のご意見のように、少し楽しさの中で横展開できるような取り組みを今後も意識して、ぜひやっていきたいと思います。

ありがとうございました。

(門間委員) いいでしょうか。

ちょっと悩んでるんですけれども、介護というと、やっぱり私鷹乃杜なん

ですが、最初からゆとりすとをやったり、カフェをしたり、地域でいろんなことをやって、こうならないようにしようよ、という活動してるんです。

現実には、地域もアップダウンきつい道路ですから、1日3,000歩歩きなさいとか、一緒に歩こうとかで、また、国道挟んで4号線挟んでイオンがありますから、非常に出やすい場所。

この夏には、クーリングシェルターというので、イオンと富谷市が提携結んでいただきましたので、おうちにいないで、そこに歩いて行って、暑くても我慢しないでいなさいねっていう部分を話したりね、そういうことをしている中で、ここ悩んでるのが、さっきから言ってるように、いろんなところで、市で体操教室があったり、何をしましょう、それから、今うちの方がちょっと一つ、かなり悩んでるのは、カフェに来る人たちの会話の中で、やっぱり今度体操に行こうよ、さっき言ったひより台の体操教室に行くかなっていうところあるんですが。

そこは、何らかの形で支援を受けたりしないと駄目なので、そのルートが非常に難しいと、行かなくてもいいんじゃないかって、私なんかは元気でいて、どこにでも行って来るんだから、いいんじゃないって言いながら、結構横の繋がりは取れるんですね。

そっちにも行って、こっちにも行って、うちに来ないから包括紹介して、とか、うん。

地域によってどうしたらいいのかな、っていうところが今悩んでるところです。

これは現実には、非常に考えが多くなってきて、実際やってて本当は介護のお世話ならなくてもいいんじゃないのって、例えば、そこら辺が一番のそこなんです。

実際的には、その地域を利用してみんなで歩いたり、元気に会話ができたり、毎週、お茶飲みおいでよっていうことでカフェに来たり、そういう部分が出来ると言うことが健康だということですね、実際、来てる方達は、皆さん、90歳過ぎてます。

全員、カフェ、ゆとりすともそうなんですけど、この人達はいいんじゃないのかな。

誘い合わなくてもいいんじゃないのかな、っていうところが一つできてきて、これをどうしようかというスタッフも考えてます、止めるわけにはいかないし、やっぱり行きたいから行ったり、っていうところが出てきて

る地域なんです。

だから、元気な町鷹乃杜でやっていくのに、私、どうしたらいいのかなと思うけどこっちはこっちで必要なんです。

高齢者になって45年の住んでる人達です、おうちを建てて。

ですから、40代にかけても85歳お2人で元気に居ます。

元気になってることは体力的に2人で居るからって、はたから見れば、やっぱりどなたかのお世話になった方が地域でも安心するっていうところで、どっちも、こっち1人で居る方がいいのかなと思ったり、こんなね、いろんなことを考える、今時期になってます、鷹乃杜は。

ですから、普通に、こうお茶飲んだりしてる、イオンに行ったりしてる。

今日も、私イオンからバスで乗ってきたんですが、大体お昼はイオンでみんな寄って、昼食摂ってるんですね。

だから、みんな楽しそうにやって、また夕御飯を買って帰るのでしょうね、っていうことが分かるんですが、それをやってくれはいいんだよっていうところで、何となく、だから、この介護っていうのは本気になって必要な人、今見えるんです、この人必要だなっていうところ。

ただ、この人たちは逆にお世話にならない、やっぱりいいわっていうところで、うちに引っ込んでいます。

ただ、今現実に目の前のごみを捨てるのさえできないんであればしょうよって言っても、やっぱ断るっていうところで、町内の何だかグルグル回ってるっていうところ多いですね、今、この勉強持っていこうかと思ったり、地域でやっぱりうんと勉強になります。

おかげさまで、やっぱ私自身が話すところがなくて、聞く役だけなんです。お電話がかかってきて、どうすればいいって言われても、どうすんのよっていう感じで言っちゃうし。

やっぱり、そういうところが非常に今日は勉強なるっていうか、この介護の委員会っていうのが非常に地域にとって見れば、顔も見える勉強会だから、私自身もね、勉強会だなと思って、これは続けていっていいんだなあというふうに思いました。

ありがとうございました。

(那須委員長) 素晴らしいお話しで、ありがとうございます。

私は認知症の講座どこで聞いたかなって思うと、民生委員の会議とか、

あと、包括支援センターの拠点というか、日吉台、受講したりとか受けるんですね、実際に関わってる人、認知症になってる方がお話しすることだから、本当に認知症なのかなという、レベルの人々というかね、なんですね。

ただ、私たちの仲間でも、認知症なんだよっていう人居るので、居るんですけども、全くそういう認知症であることを、何か感じさせないというか、普段と同じような接し方でやる方も居るんすよ。

だから、いろんな会議もその方が出てきますけれども、だから特別な方というよりも、同じ仲間だというふうな、何かね、観点で見てたらいいのかなとは私は感じてますけどね。

そういった、感じたことをお話しさせていただきました。

今日はいい会議ですね。

(佐藤委員)

資料の3番、資料が届きまして、読ませていただいたときに、分からなかったのを教えていただきたいんです。

G P P G体操って何だろうって、本当に初めて聞く言葉で、すみませんスマホで調べてみました。

そしたら、富谷市民歌のメロディに載せての体操ってふうな所まではたどり着いたのですが、その理解でよろしいんですか、それともこれは別な体操のことでしょうか。

教えていただければ幸いですお願いいたします。

(大谷所長)

すみません、まだ情報をしっかり発信していないので申し訳ございません。

こちらのG P P G体操っていうのが、今年度ですかね、この保健事業と介護予防の一体化事業の中で、仙台リハビリテーション病院さんの方と、健康推進課の方で協力しながら作り上げた、体操、運動になるんです。

こちらの方、健康推進課の事業の中で、対象の方に、数ヶ月間、ご自宅でもコツコツと取り組んでいただいた結果、参加された方の、ほとんどが、筋力とか、そういった体力測定の中で、非常に効果が高くなったっていうものになります、そういった効果とかの結果を、うちの方にも共有いただいて、ぜひ。

これは地域で進めていこうっていうところになりまして、これからちょっと積極的に進めていこうと思ひまして、今まだ本所ではゆとりすくら

ブサロンの代表者会の時に2回ほどご紹介させていただいて、次年度から、ちょっと何ていうんですかね、チェックリストのようなものを設けて、ぜひおうちで、引き続き取り組んでいただきたいてところ、実施の方を進めているものです。グッピーパーグルグル体操で下肢筋力を高めるような運動になりますので、そうですねホームページとかもちょっとタイアップしながら、はい、進めていきたいと思います、考えております。

(佐藤委員) 市民歌を使ってネットで出てきたものとはまた別の物ですね。

(大谷所長) 市民歌の方は、平成30年頃に、地域サポーター養成講座の中で、サポーターさんと仙台大学の方で作っていただいた、誇れる体操にはなるんですが、ちょっと今回はまた違ったもので、になります。

(相澤委員) 私ゆとりすと代表の相澤と申します。

明石地区のゆとりすとクラブ代表してるんですけど、実はさっき体操ですね、1月の末に代表者会議でみんなでやって、こうやったんですけども、それで2月にうちのこの地区でみんなでやったんですね。

私的には実は富谷市民体操は最初頑張ってやってたんですけども、だんだん高齢になってくると、なかなか大変だっていう、評判が悪くなっていて、それで、正直言ってやっぱり、3番目まで、結構きついみたいなんですね、それで、ちょっとやめてたんですけども。

このGPPG体操ですか、こちらもやったらですね、結構皆さん好評で、そうなのって感じで結構評価がよかったので、今度市の方からですね、各家庭にチラシのやり方の、コピーしていただいて、各家で時間ある時やってっていう形で進めるようにしました。

それであとうちの方でもですね、今度は機会あるごとに皆でやってみようということで、なかなかこうはい市民課体操とは違って簡単に受け入れられる体操のような気がしました。

それは私、やってみての感想です。

(那須委員長) ありがとうございます。

GPPG体操ですか、大分普及していくんじゃないかなって感じがしますね。

